

応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

やらねばと思ひてゐたる障子張り終ふれば妻は見届けて笑む 後藤今朝雄

シクラメン嫁の師走のプレゼント少しうるうの心なごます 鎌田ねい子

無人駅待ち合いの室の電燈が最終に乗るひとを見送る 佐藤 啓子

両の手に残ったバラの香水が香り立つとき君が現る 村上 英俊

水点下九度の朝のバンジーにそりり手を触る 鈴木 茂子

ガラスのごとし 孫二人二年続きの成人式しあわせなれとひたすら折る 佐藤喜和子

兄妹の諷い哀しひたすらに母を思いぬ風花の今日 角田久美子

身しもしも広き心の温情に癒され生きた除夜の鐘聞く 石田みどり

雪の上に散りばめられたる山茶花の花びらいくつ日が浮き立たす 遠藤 舞

正月に帰省したる孫つもる雪にそり・ミニかまくらと一日を遊ぶ 八嶋 正子

評 一首目、丁寧な日常をとらえられた。それだけに、ほっとなされたことだろう。

二首目、うれしさがよく出ている。「うるうる」は、「うるっ」となどと同じように、オノマトペ(擬態語)。

三首目、「電燈」は、寒夜に立つ駅員さんなのだ、擬人化。

俳壇

遠藤 秋尾 選

瑞雲の棚引く初日拝しけり 高子たちばお

夢希望たつぷり詰めし福袋 佐藤 啓子

今年こそ竜の勢ひ大巨 岩澤 伍峯

春帽子紐たはませて犬散歩 岩松 隆志

行事まだ出来る幸せ七日粥 阿部はぎの

機上より冬の波間に船ひとつ 大庭美智子

ご家族の心の支えになれば!

石巻市大川小に「心地蔵」を届ける



1_石巻市大川小跡 2_「心地蔵」を手にする傳さん 3_傳さんが制作した「心地蔵」

東日本大震災で児童74人と教員10人が死亡・行方不明となった、石巻市大川小学校の「遺族会」の皆さんに届けてほしいと、平成23年11月29日、加川傳さん・信子さん夫妻(大川町)が、「心地蔵」と名付けた焼き物を大川小の柏葉照幸校長に手渡した。元教員で初任地が石巻市であった信子さんは、東日本大震災で石巻市が津波に飲み込まれ、大川小の児童と教員が将来の夢を絶たれたことに心を痛め、「何かできないか」と傳さんに相談。5年前から陶芸を学んでいた傳さんは、残されたご家族の「心の支えになれば」と、「心」の文字を入れた焼き物を作ること

を決意。9月から2カ月かけて制作した。12月27日、傳さんあてに遺族から一通の手紙が届いた。手紙には「犠牲になられた方々に恥ずかしくないよう日々を生きていきたい」との文字が記され、傳さんは、うれしさとともに、さらに感慨を強くしたという。「震災を機に、人と人のつながりや支え合う心、当たり前だと思っていたことへの感謝の気持ちの大切さを感じています。沿岸部の復興には時間がかかりますが、これからも心に寄り添いたい」と、加川さん夫妻は今も被災地の復興を願っている。

遺族から届いた手紙

千年に一度の大地震。まさか自分の娘を失うとは思いませんでした。大川小では多くの子どもたちが犠牲になり、遺族はもちろん、地域全体がその喪失感に悲しみ、苦しんでいます。そんな中、「遺族会の全体会」で、加川さんが作られた「心地蔵」が一人一人に手渡されました。「このお心地蔵さまは、白石の加川さんという方が、一つ一つ手作りしてくださったのだよ」と話しながら、娘の祭壇に置かせていただきました。私の母は手を合わせながら涙していました。娘もきっと感謝していることでしょう。いただいたお気持ちに少しでもお応えできるよう、そして何より、震災で犠牲になられた方々に恥ずかしくないよう、日々を生きていきたいと考えています。本当にありがとうございました。

※一部抜粋

柳壇

四電 英夫 選

評 一句目、心新たに初日を待つ、そこに流れる雲が初日に映えて、なんとも神々しい。瑞雲とはめでたいしるしの雲を言う。二句目、今年は福袋が人気があったようだ。中身の夢ばかりか希望を買った作者である。正月らしいうれしい俳句。三句目、昨年は大地震、大津波、原発事故、国難の年も明け辰年となった。天にも昇る勢いになることを希う元日である。頑張りましょう。

4月1日(日)13時より、「市民俳句初心者講座」をふれあいプラザで開きます。ぜひご参加ください。(詳しくは22ページ掲載)。

日本では物足りないタルビッシュ

大庭 良子 草野 清 阿部はぎの 斎藤 典子 村上 照夫 寺崎 悦子 遠藤 行夫 阿部みさ子 佐藤 啓子 佐久間とみ子 大庭美智子

評 一句目、大リーグへ取ってチャレンジしたタルビッシュ投手。飽くなき挑戦に、求道者の姿を垣間見る。挑戦者に栄光あれ。

二句目、良きにつけ悪しきにつけ、酒は人の心を解きほぐす魔法の飲み物。百葉の長といわれる所以か。酒は静かに飲むべかりけり。

三句目、震災から一年。復興への力強い槌音が聞こえる。がんばろう、立ち上がろう。国を挙げての大合唱。春の来ない冬はない。

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して—

公立刈田総合病院紹介



健診センター medical checkup center

健診センターからのお知らせ

健診センターは、日帰り人間ドックや脳検査(最新型MRI装置による脳血管の画像診断)、生活習慣病健診、定期健診、進学時・雇用時・海外派遣時の各種健診などを行っています。また、人間ドックや生活習慣病健診を受けた方にはオプションで、子宮がん健診や乳がん健診、骨密度検査、前立腺がん検査を行っています。生活習慣病をはじめ、体の異常の早期発見に大きな威力を発揮するのが人間ドックです。一般の健診では検査内容が限られていますが、人間ドックは詳しい検査を多項目にわたって行うため、体全体をチェックすることができます。人間ドックは義務ではありませんが、日々の忙しさで後回しになりがちです。ぜひ、定期的に体の総点検を受けてはいかがでしょうか。健診や人間ドックを受けてその結果を確認し、必要な時は病院を受診することも大切です。健診結果をもとに自分の生活習慣を見直し、健康状

態をよりよい方向に持っていききっかけにさせていただきたいと思います。

- 主な料金(税込み)
・人間ドックAコース 37,800円
・人間ドックCコース 25,200円
・定期健診 10,500円
・脳検査 21,000円

●申し込み・問い合わせ先
健診センター ☎25-2178

このコーナーは、病院広報紙「かったほっとぶれす」の定期発行により、今月号で終了します。ご愛読ありがとうございました。
※「かったほっとぶれす」は年4回(4・7・10・1月)発行しています。ぜひ、ご覧ください。

最強「大笑い」3連覇! 第21回市民綱引き大会

1月22日、「第21回市民綱引き大会」をホワイトキューブで開催しました。本年の大会には、過去最高の小学生の部17チーム、中学生の部17チーム、一般の部10チームの合計44チーム約570人が出場。大会は、白石第二小学校6年の齋藤光貴くんの選手宣誓でスタート。会場から大きな声援が送られ、選手は息を合わせて綱を力一杯引き、熱戦を繰り広げました。

- ・小学生の部 1位「白石第二小学校A」、2位「深谷小学校」、3位「大鷹沢小学校A」
・中学校の部 1位「A-S 30 soon(白川中)」, 2位「小原中学校ソフトテニス部」、3位「I♥新体操(東中)」
・一般の部 1位「大笑い」、2位「ニチレイフーズ白石工場」、3位「気綱」



1_齋藤くんが力強く選手宣誓 2_小学生の部で優勝した「白石第二小学校A」 3_中学生の部で優勝した「A-S 30 soon(白川中)」 4_一般の部で優勝した「大笑い」3連覇達成!